

南蠻鑄物師

帝キネ時代映畫

原作並脚色者 松尾邦弘  
監督者 矢内政治  
撮影者 高橋武則

主要役割

南蠻鑄物師 萩原祐佐 實川延松  
切支丹大和尚 岡準人 片岡童十郎  
無頼漢 片瀬の半次 市川海老三郎  
目明し 鳶鳥の三太 鈴木信子  
準人娘 八重 鈴木信子  
半次の妹 お美代 鈴木信子

解説 矢内政治氏の「親馬子馬」に次ぐ作品である。

略筋 長崎奉行水野河内守は邪宗徒の詮議のため鑄物師萩原祐佐に命じて踏繪を作らせ後、目明し鳶鳥の三太に命じて彼を召捕らせんとした。切支丹僧月岡準人は祐佐を救ひ、拔けば必ず人を斬る、併し殺意を以て、抜く時は禍必ず身に及ぼすと云ふ不思議な寶刀を彼に與へた。その頃三太は異國人の家のみを襲ふ、盜片瀬の半次を追ひ半次の妹お美代を妻にこの交換條件で彼を見送す約束をした。お美代の悲嘆を知つた祐佐はかの寶刀を以て悪辣な三太を介しその後お澄と共に準人の邸にあつた。準人の娘八重は祐佐を慕つてゐたが神に仕へる身としてそれは到底許されぬことであつた。或日祐佐は三太を終した事から捕手に襲はれたが準人は彼を庇ふて捕はれぬ身となつた祐佐は八重とお澄を遁さんとしたが寶刀の禍は八重を斃しお澄を傷け更に彼自身をも仆して仕舞つたのであつた。